

2019年度 自己評価表(京都ホテル観光プライダル専門学校 ホテル学科)

1. 学校の教育目標

【態度・姿勢】ホテル学科共通

- 1.人に奉仕し、人をもてなし、人を幸せにするホスピタリティマインドを習得している。
- 2.ホスピタリティ業界で求められる社会人基礎力(挨拶、笑顔、身だしなみ、自分で考え自分で動く)を身に付けている。
- 3.どんな状況にも適応し、最後まで諦めずに対応できるストレス耐性、柔軟性、積極性を身に付けている。

【知識・技能】宿泊サービスコース

- 1.ホテル宿泊部門の中核的専門人材として能動的な行動が活躍できる専門知識・技能を習得している。
- 2.清潔・快適・安全な宿泊環境および質の高いサービスを、関連セクション間の連携のもと提供できる、実務的な知識やスキルを習得している。
3. HRS3級取得のために必要とされるホテル、レストラン、宴会サービスにおける実務に必要な知識やスキルを身に付けている。
- 4.グローバル社会に通用する情報活用能力とコミュニケーション能力および、企業利益に貢献できるマネジメント能力・マーケティング能力を習得している。

【知識・技能】料飲サービスコース

- 1.ホテル料飲部門の中核的専門人材として能動的な行動が活躍できる専門知識・技能を習得している。
- 2.料飲施設の演出家として、サービスを担当するあらゆる職種に必要とされる、実務的な知識や素養を習得している。
3. HRS3級取得のために必要とされるホテル、レストラン、宴会サービスにおける実務に必要な知識やスキルを身に付けている。
- 4.グローバル社会に通用する情報活用能力とコミュニケーション能力および、企業利益に貢献できるマネジメント能力・マーケティング能力を習得している。

【知識・技能】上級ホテルコース

- 1.上質なホスピタリティサービスをトータルコーディネートできる専門知識・接客技能を習得している。
- 2.世界から訪れるお客様の満足度を高めるために必要な接客対応力と語学力を習得している。
3. HRS3級取得のために必要とされるホテル、レストラン、宴会サービスにおける実務に必要な知識やスキルを身に付けている。
- 4.グローバル社会に通用する情報活用能力とコミュニケーション能力および、企業利益に貢献できるマネジメント能力・マーケティング能力を習得している。

2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

- ①ホスピタリティマインドとアカデミック・インテグリティの醸成による、人間力向上と、強い人材の養成に向けた「ひとつくり」への取り組みの強化
- ②宿泊サービス教育における質の保証と向上への取り組み
- ③課題解決型のアクティブラーニングを取り入れた料飲サービス教育における思考力、表現力の向上
- ④グローバル化に適応する語学力と高度な接客スキルを身に付けた人材育成のためのイノベーション
- ⑤教員の資質向上のための外部研修、関連委員会への積極的な参加と、退学防止に向けたクラス運営と指導強化
- ⑥「認知度向上」「歩留り5獲得」への取り組みによる募集力強化と、就職の4指標の高いレベルでの実現に向けた広報
涉外部・就職部との教職協働の促進
- ⑦カテゴリーリーダーにふさわしい全国トップレベルの検定合格実績の維持・向上

3.評価項目の達成及び取り組み状況

(1). 教育理念・目標

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1	昨年評価	備考:取り組みの内容	備考:根拠となる資料の内容
1 ·学校の理念・目的・育成人材像は定められているか (専門分野の特性が明確になっているか)	4 3 2 1	4	体系化した学園理念の下で教育理念・教育綱領を明確にして、さらには学科・コースごとに3ポリシーを定めている。 2018年度から「カリキュラムマップ・カリキュラムツリー」を策定し、教育課程を体系的に示した。教職員と学生双方が本校での2年間で何を学び、何を身に付けるのか、卒業後の姿をより明確にイメージにすることで教育効果を高められるよう取り組んだ。	・教育理念 ・3ポリシー ・カリキュラムマップ ・カリキュラムツリー
2 ·学校における職業教育の特色は何か	4 3 2 1	4	それぞれの職業に必要なスキル教育だけに視点を置くのではなく、その前に「人間として必要なことがある」ということを重視するとともに、独自のカリキュラム内容で演習・実習等を中心に実践的な授業を展開している。特に、人の幸せを自分の幸せと考えができるホスピタリティマインドの涵養について重きを置いている。なお、ホームページの「ごあいさつ」の部分に学科ごとの教育方針を記述している。	・学則の教育課程(カリキュラム) ・ホームページ「ごあいさつ」ページ ・キャリエール・クール・スタンダード
3 ·社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4 3 2 1	4	10年後を見据えた学園ビジョン(長期経営目標)、学園の中期経営計画(中期経営目標)、各年度の学園運営方針を基に、本校の運営方針を、さらには学部、各学科の事業計画に具体的な目標設定をしてその達成に向けて取り組んでいる。また、それぞれの目標設定の際には社会経済の動向予測やニーズなどの把握をして計画を策定するとともに、産業界と連携した教育課程編成委員会・学校関係者評議会を開催している。	・学校運営方針
4 ·学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか	4 3 2 1	3	学生に配布する学生便覧やWEBシラバスに掲載するとともに、HPにも掲載している。	・STUDENT HAND BOOK ・WEBシラバス ・ホームページ「ごあいさつ」ページ ・ホームページ「養成する人材像と各学科ポリシー」ページ ・ホームページ「職業実践専門課程」ページ ・定期試験保護者宛結果発送 ・保護者アンケート
5 ·各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4 3 2 1	4	産業界と連携した教育課程編成委員会を毎年実施し、業界の動向を学校のカリキュラムに反映させている。 学校運営方針をもとに各学科事業計画を策定し、上期終了時に中間チェックを行っている。	・事業計画書

①課題

・ディプロマ・ポリシーを保護者、就職先事業所等に積極的に発信していき、学校がどのような知識や能力をもって社会の期待に応えるかを周知する必要がある。ステークホルダーとの双方向の意思疎通が重要である。

②今後の改善方策

・ホームページはもちろん、入学前のオープンキャンパスや在学中の保護者説明会、就職先事業所への学校説明の際に、ディプロマ・ポリシーを積極的に発信する。教育課程編成委員会での助言や提言を次年度のカリキュラムに活かし、また、保護者に対して学生の在学状況(各種学校行事や授業の取り組み状況等)を適宜発信する。

・保護者アンケートの結果を施策に反映する。

③特記事項

・ホームページで教育理念、3ポリシーなどを積極的に情報公開するとともに、保護者向けには学生の成績情報や資格取得状況、就職状況を案内している。

(2). 学校運営

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1	昨年評価	備考:取り組みの内容	備考:根拠となる資料の内容
1・目的等に沿った運営方針が策定されているか	(4) 3 2 1	4	長期経営目標、中期経営計画、学園運営方針、学校運営方針を体系的に策定している。	・長期経営目標 ・中期経営計画 ・学園運営方針 ・学校運営方針 ・事業計画書 ・ホスピタリティ・レポート(学園概要 & SR報告書)
2・運営方針に沿った事業計画が策定されているか	(4) 3 2 1	4	各部署事業計画を学校運営方針に沿って毎年度、策定している。	・学園運営方針 ・学校運営方針 ・事業計画書
3・運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	(4) 3 2 1	4	法人の管理規則に明記され、規則に則り運営されている。 また、管理規則は適宜更新され、その都度教職員に周知徹底されている。	・コンプライアンスマニュアル(管理規則)
4・人事、給与に関する規程等は整備されているか	(4) 3 2 1	4	法人において、人事規程、人事考課規程を定めている。 人事規程、人事考課規程は適宜更新され、その都度教職員に周知徹底されている。	・コンプライアンスマニュアル (給与規程、人事規程、人事考課規程)
5・教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	(4) 3 2 1	4	法人の管理規則、経理規程に則り整備されている。 管理規則、経理規程は適宜更新され、その都度教職員に周知徹底されている。	・コンプライアンスマニュアル (管理規則、経理規程)
6・業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	(4) 3 2 1	4	法人において、グループ・ガバナンスを構築し、全教職員にコンプライアンスマニュアルを共有し、周知徹底を図っている。	・コンプライアンスマニュアル(管理規則、庶務規程、情報セキュリティポリシー、プライバシーポリシーなど)
7・教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	(4) 3 2 1	4	入学案内書、ホームページ、ホスピタリティ・レポート(学園概要 & SR報告書)などを通じて、情報公開している。	・入学案内書 ・ホームページ ・ホスピタリティ・レポート(学園概要 & SR報告書)
8・情報システム化等による業務の効率化が図られているか	(4) 3 2 1	4	リプレイスしたグループウェアおよび独自の業務支援システムを活用し効率化を図っている。	・グループウェア ・業務支援システム

① 課題

・2019年度より新システムが本格稼働し、履修登録や証明書等の様式、学生情報画面、メール配信方法など運用方法がこれまでと大きく変更された。教員の多様性や働き方改革の持続的な推進を図ることが今後も求められる。

② 今後の改善方策

・新システムについてはマニュアル等の作成・活用や担当間のコミュニケーションを増加させ、更なる業務の効率化を図っていく。
・新型コロナウィルスの感染拡大に伴い、在宅勤務やオンライン会議・授業、子育て世代の支援など新たな取り組みを積極的に取り入れ実践し成果を継続して積み上げていく必要がある。

③ 特記事項

・各種規程・規則をまとめた「コンプライアンスマニュアル」において組織の意志決定や人事、給与に関する規程、セキュリティポリシーなどを定め、コンプライアンスの周知徹底をはじめリスクマネジメントの強化など、公正かつ透明性の高いグループ・ガバナンスを構築している。
・学園ではCSV(社会との共通価値の創造)推進委員会を立ち上げ、学生の環境保全や地域貢献に対する意識の向上につなげるべく、学生参加のSR活動を積極的に展開している。

(3). 教育活動

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1	昨年評価	備考:取り組みの内容	備考:根拠となる資料の内容
1・教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	(4) 3 2 1	4	建学の精神、教育綱領、3ポリシーなどの教育理念より、養成する人材像を明確にし、教育課程を体系的に策定している。	・養成する人材像 ・3ポリシー ・アセスメントポリシー ・学則 ・シラバス
2・教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	(4) 3 2 1	4	ポリシーに沿ったカリキュラムを編成し、1,700授業時間以上を確保している。あわせてアセスメントポリシーを策定し、カリキュラムの見直し、改編を行っている。	・3ポリシー ・アセスメントポリシー ・授業時間数一覧
3・学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	(4) 3 2 1	4	3ポリシーに沿ったカリキュラムを編成し、2年間を4期に分けて、毎年、カリキュラムを見直し、改編を行っている。あわせてカリキュラムマップ、カリキュラムツリーを作成し、体系的な学びを構築している。	・授業時間数一覧 ・カリキュラムマップ・カリキュラムツリー
4・キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	(4) 3 2 1	4	現場同様の施設・設備を利用した実践的な授業や、学外での各現場と連携した授業を企て、実施している。	・シラバス
5・関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	(4) 3 2 1	4	業界団体、企業より教育課程編成委員を任命し委員と共に、カリキュラムの作成・見直しを行っている。	・教育課程編成委員会報告書
6・関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか	(4) 3 2 1	4	1年次の夏には必修インターンシップを実施し、1年次の冬には希望制で再度インターンシップを実施している。また、上級ホテルコースは、1年次の冬に必須で留学か東京都内ホテルでのインターンシップを選択することも可能としている。	・インターンシップ報告書
7・授業評価の実施・評価体制はあるか	(4) 3 2 1	4	全ての授業を対象に授業評価を実施している。	・授業評価アンケート見本
8・職業教育に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	(4) 3 2 1	4	インターンシップ終了後のアンケートおよび事業所訪問時にインタビュー形式での調査を行い、評価を含め、その情報を元に、今後のカリキュラムを含めた教育に活用している。 また、外部関係者から学校関係者評価委員を任命し、委員からの評価を反映させている。	・インターンシップアンケート見本 ・学校関係者評価委員会報告書
9・成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	(4) 3 2 1	4	各科目60点以上を単位認定としている。 また、本校独自の卒業要件として、「卒業要件ポイント」を設けている。	・学則
10・資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	(4) 3 2 1	4	国家検定のレストランサービス技能検定やホテル・接遇関連資格の取得を目指し、1年次のカリキュラムから各授業を設定している。	・授業時間数一覧
11・人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	(4) 3 2 1	4	毎年の授業評価の結果をもとに、各科目の担当教員の見直しを行っている。また、関連事業所とのネットワークを通じて、より魅力的で指導力の高い教員を確保している。	・授業評価アンケート結果
12・関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含む)を確保するなどマネジメントが行われているか	4 (3) 2 1	3	関連事業所からの講師派遣や人材派遣会社、現教員のネットワーク強化を図り、常に優れた教員の提供先を確保しているが、5年、10年先を見据えた計画的なマネジメントという点においては、今後さらなる対応が必要と考える。	・教員編成一覧
13・関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	(4) 3 2 1	4	夏季休暇時を中心に、幅広く研修を企画、実施し、教職員の経験年数や能力に合わせて受講しているほか、外部のセミナーへの参加、各種関連資格等への取組みも実施している。	・研修一覧
14・職員の能力開発のための研修等が行われているか	(4) 3 2 1	4	夏季休暇時を中心に、幅広く研修を企画、実施し、教職員の経験年数や能力に合わせて、受講させている。	・研修一覧

① 課題

- ・18歳人口の激減による入学者数の減少
- ・国家検定となる「ホテル・マネジメント技能検定」の資格取得対策について、実施のタイミング、回数、内容等十分に検討し、カリキュラム改編も視野に入れた対策強化にむけて取り組んでいく必要がある。
- ・新型コロナウイルスなどの感染拡大に伴う学校休講などの措置に備えた学事日程の調整と学習環境の整備が必要。

② 今後の改善方策

- ・国家検定主催協会からの情報収集や、担当いただく非常勤講師との連携を図り、結果に結びつく効果的な対策について、準備をすすめていく。あわせて、カリキュラム検討委員会においては、対策実施タイミングなどについて十分に検討を図っていく。
- ・オンライン教育に関する環境整備と教育ノウハウの蓄積を引き続き行う。

③ 特記事項

- ・授業外での外部関連施設訪問や体験の機会を複数設定し、業界や職種の理解に努めている。

(4). 学修成果

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1				昨年評価	備考:取り組みの内容	備考:根拠となる資料の内容
1・就職率の向上が図られているか	(4)	3	2	1	4	各クラス担任と就職部とが連携し、サポート体制を強化し、就職指導科目的充実を図っており、毎年高い就職率を維持している。	・入学案内書 ・ホームページ「就職実績」
2・資格取得率の向上が図られているか	(4)	3	2	1	4	主要検定については、強化検定とし、対策授業や試験直前授業などを企てるとともに、e-Learningなども効果的に利用しながら、高い取得率を維持している。	・入学案内書 ・ホームページ「資格・検定」
3・退学率の低減が図られているか	(4)	3	2	1	4	出欠動向や普段の学習態度などをしっかりと把握し、定期的な個人面談を実施し、担任によるサポートに力を入れている。 また、臨床心理士による学生カウンセリング(希望者のみ)、入学時のプレイスメントテスト(英会話)を実施し、学生に対しきめ細かに対応している。 学費については高等教育修学支援新制度の対象校になるなど継続してサポートの充実を図っている。	・年度別退学率データ
4・卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4	(3)	2	1	3	事業所アンケートを実施するとともに、定期的な同窓会報の発送や同窓会ホームページなどにより、卒業生の動向把握に努めている。	・事業所訪問履歴
5・卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	(4)	3	2	1	4	各事業所への訪問活動や卒業生によるセミナー・3年に1度の卒業生アンケートなどを通じて、卒業後のキャリア形成の効果の把握に努めている。	・卒業生アンケート

① 課題

- ・卒業生の活躍、評価の把握にさらに努める必要がある。
- ・在学中から職業観を醸成させ、早期離職の防止に努める必要がある。

② 今後の改善方策

- ・卒業生自身が、近況報告していくように、従来からの同窓会報やHP、元担任とのつながりに加えて、SNSなどを効果的に利用していく。また、ホームカミングデーの運営を通して、卒業生との接点を広げていく。
- ・卒業生がお世話になっている事業所を中心に、卒業後のキャリア形成への効果について伺う機会(訪問やアンケートなど)を設けていく。
- ・基礎学力向上講座や就職試験筆記対策(一般常識問題対策)などの授業により、学習方法の理解や継続学習の習慣をつけさせる。
- ・本校独自の奨学金制度や高等教育修学支援新制度などを入学前より、しっかりと告知し、計画的な学費納入を保護者ともども、考えていただくようにする。
- ・自身の将来像をしっかりと描かせるためにも、卒業生や業界人などのキャリアモデルを見せ、魅力ある体験談などを聞かせる。また、教職員自体が憧れの存在となるように人間的魅力の向上に努める。
- ・正しい業界・職種・事業所理解と自己理解のもとで的確に希望職種・企業を選択・受験し就職できるよう指導・サポートしていく。

③ 特記事項

- ・資格検定の取得を卒業要件とすることで学生のキャリアアップと就活力の向上を図っている。

(5). 学生支援

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1				昨年評価	備考:取り組みの内容	備考:根拠となる資料の内容
1・進路・就職に関する支援体制は整備されているか	(4) 3 2 1				4	就職サポート専属の部署と各クラス担任とが連携し、就職関連授業及びホームルームや個人面談を通じて、就職支援体制を整えている。	・業務分掌
2・学生相談に関する体制は整備されているか	(4) 3 2 1				4	担任制度を設けており、日々の学生動向の確認とともに、全学生対象の学生面談を実施している。また、カウンセリング制度を設け、カウンセラーによる相談も可能にしている。	・業務分掌 ・教務規程
3・学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	(4) 3 2 1				4	独自の特待生・奨学生制度や学費延納制度、教育ローンの紹介などの対応をしている。また、教育訓練給付金や専修学校専門課程修学支援制度など国や都道府県が実施している奨学金事業も積極的に学生に案内を行っている。加えて、2020年度から始まる高等教育新修学支援新制度の対象校となり、募集を実施した。	・大和学園奨学金給付規程
4・学生の健康管理を担う組織体制はあるか	(4) 3 2 1				4	校医を1名配置している。また、前期・後期に健康チェックシートを提出させ、学生の健康状態の把握に努めている。	・検査結果 ・健康チェックシート ・アンケート集計結果
5・課外活動に対する支援体制は整備されているか	(4) 3 2 1				4	京都府専修学校各種学校協会の体育大会に向けての練習サポートや、資格検定や関連分野の課外講座なども実施している。	・各報告書
6・学生の生活環境への支援は行われているか	(4) 3 2 1				3	住居の支援体制を整え、入学前の住居斡旋や学生寮の紹介、生活環境の相談など不安の解消にあたっている。また、担任制を敷き、ホームルームの時間を設け、定期的に学生面談等を行っている。	・募集要項
7・保護者と適切に連携しているか	(4) 3 2 1				3	就職活動学年の保護者に対して、就職実績、就職サポートに関する資料を作成、発送し、希望に応じて個別の面談に機会も設けている。また、学生の成績・出席状況などを定期発送しており、問題のある学生の場合は保護者とのやり取りを実施している。	・就職活動サポート資料
8・卒業生への支援体制はあるか	(4) 3 2 1				4	同窓会報やホームページを通じて、再就職サポートに力を入れている。また、直接相談についても隨時、受け付けている。また、卒業後もライブラリーを開放し、利用を促している。	・ホームページ「OB・OGサイト」 ・同窓会規則 ・同窓会報 ・情報ライブラリー利用規程
9・社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	(4) 3 2 1				4	社会人を経ての入学生についても、分け隔てなく、サポート、指導している。また、同じ立場の学生同士のクラス分けについても配慮している。また、社会人を対象とした奨学金制度を設けている。専門実践教育訓練給付金対象校であり、社会人の学びを学費面でもサポートしている。	・業務支援システムの学生指導歴 ・専門実践教育訓練給付金指定講座認定書
10・高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	(4) 3 2 1				4	高等学校との職業理解やマナー修得を目的に見学会や連携授業を実施している。	・教育提携覚書 ・見学会実施要領

① 課題

- ・保護者の学校理解(規程、教育、就職サポートなど)促進をさらに努める必要がある。
- ・卒業生との継続的な繋がりが必要。
- ・新型コロナウイルス感染防止に向けた取り組みの徹底。

② 今後の改善方策

- ・資料発送などを通じて、保護者への定期的な情報提供を実施し、本校教育の取り組みに対する理解促進につなげていく。
- ・卒業生に対するサポート体制を在学中はもちろんのこと、卒業後においても、同窓会報やホームページなどで、継続して告知、発信し、理解促進に努める。
- ・学生の経済支援・生活支援について、外部の奨学金の情報のさらなる入手、担任との面談等を通じたやり取りを行い、学生支援の充実を図っていく。
- ・新型コロナウイルス感染防止に向け、3密を避けた配置や消毒等の徹底に加え、学生の日々の体調管理を確認する仕組みを稼働させる。また、オンラインでの学生面談なども必要に応じて継続していく。

③ 特記事項

- ・学園内でハラスマント防止委員会を配置し、ハラスマントゼロに取り組んでいる。
- ・HRSサービスコンクールへの参画や出場学生のサポートを行っている。
- ・就職活動に必要な知識・スキル・マナーを学習する授業がカリキュラム化されている。

(6). 教育環境

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1	昨年評価	備考:取り組みの内容	備考:根拠となる資料の内容
1 ·施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	(4) 3 2 1	4	3か年ごとの更新計画を立てそれに基づいて施設・設備を更新している。	・施設・設備パンフレット ・3か年計画
2 ·学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	(4) 3 2 1	4	インターンシップを卒業必修単位として定め、事前指導から評価まで体系的な教育体制を整えている。	・インターンシップ報告書
3 ·防災に対する体制は整備されているか	(4) 3 2 1	3	衛生管理者・防火管理者を中心に防火・防災のための点検区分・担当者とその任務及び火気取扱責任者を任命し、体制を整え、防火・防災に取り組んでいる。教職員対象の避難訓練を行い、学生向けに非常時の避難方法や自然災害に関する講座を行った。	・消防計画

①課題

- ・学生や一部の教職員が避難訓練に参加できていない。
- ・オンライン授業の実施に向けた周辺機器や通信環境の整備が不十分

②今後の改善方策

- ・学生を巻き込んだ避難訓練やホームルームなどを通じて、学生に対して防火・防災の意識を啓発する。
- ・災害時のマニュアルを作成し、教職員・学生に共有、日頃から防災意識を高める。
- ・業者と連携し、入学時にタブレット購入などを推奨するなど周辺機器や通信環境を整えるサポートを行う

③特記事項

- ・継続して学生に防火・防災教育を実施。
- ・2019年度に学生用ICT機器(パソコン)をリニューアル。

(7). 学生の受け入れ募集

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1	昨年評価	備考:取り組みの内容	備考:根拠となる資料の内容
1・学生募集活動は、適正に行われているか	(4) 3 2 1	4	アドミッション・ポリシーに基づき、6月以降にAO入学エントリーを開始し、8月以降に出願受付。その他、一般入試等については、10月以降に出願を受け付けている。	・入学要項
2・学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	(4) 3 2 1	4	就職率や資格・検定合格率については、関連部署に確認を取ったうえで入学案内書に掲載している。	・入学案内書
3・学納金は妥当なものとなっているか	(4) 3 2 1	4	健全な財務運営や入学者の家計における学費負担などを勘案し、奨学金制度なども含めて、毎年1月に、翌々年度の学納金の額を検討し、決定している。そのことによって学校選択の際には入学希望者があらかじめ学納金を把握できるようにしている。	・入学要項

①課題

・特になし。

②今後の改善方策

・特になし。

③特記事項

・入学希望者は学校選択をする際に学納金の額を確実に把握できるよう、早期に学納金を決定している。
 ・2020年度から実施の高等教育修学支援新制度の対象校に認定されている。
 ・2021年度入学者選抜に関する情報収集を継続して行い、高大接続改革に対応する。

(8). 財務

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1	昨年評価	備考:取り組みの内容	備考:根拠となる資料の内容
1・中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	(4) 3 2 1	4	各学科ともに入学者を確保できており、予算に基づく適切な収支のバランスが保持できており将来を見据えたキャッシュフローも確保でき、財務基盤の強化が図られている。	・2019年度決算書
2・予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	(4) 3 2 1	4	毎年事業計画に則り収支バランスのとれた予算を策定し、執行に際しても管理徹底を行っている。	・事業計画書
3・財務について会計監査が適正に行われているか	(4) 3 2 1	4	月次決算報告会を実施し、公認会計士による執行状況のチェックを毎月実施している。	・月次報告会資料
4・財務情報公開の体制整備はできているか	(4) 3 2 1	4	期日までに学園ホームページにて最新の財務状況を公開している。	・大和学園データ集「学校法人大和学園の財務状況」

①課題

- ・18歳人口の大幅減少を見据えた健全な財務運営。

②今後の改善方策

- ・新たな教育分野の開拓や定員増等収入の安定確保に繋がる中長期財務計画の策定と取り組み。

③特記事項

- ・特になし。

(9). 法令等の遵守

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1	昨年評価	備考:取り組みの内容	備考:根拠となる資料の内容
1・法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	(4) 3 2 1	4	法令遵守はもとより、学園内の諸規程を整備し、すべての規程をコンプライアンスマニュアルという名称で学内ネットワークに掲示し、周知を図って、適正に運営している。学則(教務課程)の見直しは毎年行い、法令に従って都度届出等を行っている。	・コンプライアンスマニュアル ・学則
2・個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	(4) 3 2 1	4	個人情報に関する独自の規程を定め、問題が起きた際の対処フローも決めて、徹底を期している。また、学生に対してもSNS利用のためのガイドラインを示すとともに、個人情報保護に関する啓発をしている。	・情報セキュリティポリシー(情報管理に関する規程) ・プライバシーポリシー(個人情報保護に関する規則) ・SNS利用のためのガイドライン ・特定個人情報の適正な取り扱いに関する基本方針 ・特定個人情報取扱規則
3・自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	(4) 3 2 1	4	現在は新点検評価として授業評価、学校満足度調査、卒業生、事業所、保護者に関するアンケート調査を実施し、アンケートで出てきた改善点を学校運営、授業運営に反映している。また、「専修学校における学校評価ガイドライン」に基づいた自己評価を実施し、今後の目標設定や改善の取り組みに活用している。	・授業評価アンケート報告書 ・自己評価表
4・自己評価結果を公開しているか	(4) 3 2 1	4	学科別に自己評価表をHPに公開している。	・ホームページの職業実践専門課程ページ

①課題

- ・特になし。

②今後の改善方策

- ・特になし。

③特記事項

- ・定期的に全教職員を対象に情報セキュリティに対する意識向上および正しい知識の定着を図り、個人情報と情報機器を適切に運用するため、年2回のチェックテストを実施している。

(10). 社会貢献・地域貢献

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1	昨年評価	備考:取り組みの内容	備考:根拠となる資料の内容
1・学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	(4) 3 2 1	4	各種団体に対し、様々な講習会等を実施するために学校の施設を提供している。	(活動例) ・祇園祭講習会 ・年末特別講習会
2・学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	(4) 3 2 1	3	学生が地域の方々とふれあえるイベントを実施している。また、卒業要件ポイントにもボランティア活動も加え、評価の対象とし、学生の積極的な活動を促す仕組みを設けている。	(活動例) ・高齢者福祉施設訪問
3・地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等を含む)の受託等を積極的に実施しているか	(4) 3 2 1	3	京都市内の高等学校に対して連携授業を行っている。また、併設するスクール事業に本校教員が参画して、地域や大学等の職業訓練、資格取得の対策講座に貢献している。	(活動例) ・京都西山高等学校連携授業

① 課題

- ・併設するスクールで実施している地域に対する公開講座・教育訓練に講師派遣などで参画しているが、専門学校単独事業としては実施数が少ない。
- ・ボランティア活動について示している「高齢者福祉施設訪問」以外にもさらに積極的に行うべきと考える。また、SDGsについて理解を深め、その趣旨を意識した活動も合わせて行うべきと考える。

② 今後の改善方策

- ・2019年度に改訂した「卒業要件ポイント」に関する学生への告知を徹底し、ボランティア活動を促していく。
- ・掲示物やホームページなどでSDGsを意識した情報発信を行い、学生や教職員の理解を促していく。

③ 特記事項

- ・社会貢献・地域貢献に関する詳細はホスピタリティ・レポート(学園概要 & SR報告書)および、学園ホームページ(<https://www.taiwa.ac.jp/csv/>)参照。

(11).国際交流(必要に応じて)

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1	昨年評価	備考:取り組みの内容	備考:根拠となる資料の内容
1・留学生の受け入れ・派遣について戦略を持って行っているか	(4) 3 2 1	4	留学生用の入学案内書および入学要項、奨学金・住居サポートのパンフレットを作成し、留学生対象のガイダンスへの参画や日本語学校への訪問などで募集活動を行っている。 また、在学生に対し海外留学制度を設けている。	・留学生パンフレット ・入学要項 ・サポート制度のご案内 ・訪問計画 ・入学案内書「海外留学・研修プログラム」
2・留学生の受け入れ・派遣、在籍管理等において適切な手続き等がとられているか	(4) 3 2 1	4	留学生の受け入れについて、留学生用の入学案内書および入学要項、奨学金・住居サポートのパンフレットを作成し、留学生に安心して入学してもらえるよう案内している。 また、在籍管理等においては各種届出や留学生実態調査に適宜提出し、入国管理局から適正校の認定を受けている。	・留学生パンフレット ・入学要項 ・サポート制度のご案内 ・留学生実態調査回答用紙 ・適正校認定書
3・留学生の学修・生活指導等について学内に適切な体制が整備されているか	(4) 3 2 1	4	教務部において留学生カウンセラー制度を設け、定期的な面談を行い必要に応じアドバイスをしている。	・業務支援システムの学生指導履歴
4・学習成果が国内外で評価される取組を行っているか	(4) 3 2 1	4	国内のサービスコンテストに参加し、表彰を受けている。イギリスへの海外実務研修を実施しており、ホテルにて業務に携わり、高い評価を得ている。 また、英文での卒業証明書、成績証明書を発行している。	・海外留学報告書 ・各種資格検定報告書

①課題

留学生の入学実績が少ない。

②今後の改善方策

・教員向けの説明会や入試制度を検討し、日本語学校とのさらなる連携の強化を図る。
・ガイダンスや日本語学校訪問を積極的に行い、留学生の入学実績を増やしていく。
・卒業後の就職支援を強化すべく、事業所との連携を強化していく。

③特記事項

・京都の大学、短大、専門学校や関係者が集まった「留学生スタディ京都ネットワーク」に参画している。
・卒業後の就職支援を強化すべく、事業所との連携を強化していく。

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

長期経営目標・中期経営計画をもとに、学園運営方針、学校運営方針が策定され、教職員が同じ方向を向いて学校運営に取り組んでおり、各制度、システム、体制が整備されている。ホテル学科は、顧客ゲスト対応に必要な能動的態度とコミュニケーションスキルを強化し、「理論と実際」をより深く融合させた職業型実学教育の充実を図ることで確かな語学力と洗練されたホスピタリティセンスを兼ね備えた世界に通じるホスピタリエの養成をめざした。特にF&Bサービス演習の授業におけるランチ営業では、Web上から一般ゲストの申し込みを可能とし、より現場近い状況を作り上げた。その中で能動的な学生の取組みを促進するため、役割分担を学生に任せ、より良いおもてなしを計画させるとともに、毎回の授業で課題の抽出と改善を加えており、自分たちが中心となって展開するレストランとしての意識を高めている。あわせて各業界関連資格については、対策授業や資格サポートシステムなどにより、レストランサービス技能検定では受験者全員の合格、ホテルビジネス実務検定では例年以上の高い資格取得実績を維持できている。あわせてHRS協会主催のコンクールでも、4年連続して入賞するなど、受賞に向けた効果的な指導体制も構築できている。今後も、各現場で必要とされる知識・技術等に結びついた資格・検定の取得に注力したい。

また、定期的な授業評価の実施により、各授業の良い点、改善点を見出し、より満足度の高い、そして実践的かつ専門的な職業教育が各授業において実施されている。さらに学校関係者評価委員会や教育課程編成委員会を通して関連分野の企業や業界団体等とのさらなる連携強化により企業・業界等の要請等を十分にいかしつつ実践的かつ専門的な職業教育の実施につなげていきたい。

就職に関しては、就職率の向上のみならず、就職実績の質的向上についても図られているが、職業観の醸成、企業とのマッチングなどを意識しながら、卒業生の早期離職の防止に努めていく。また、卒業生の活躍や評価を正確にかつ、タイムリーに把握し、それらを職業教育、就職関連授業の改善に活かしていきたい。